



## 進化する内視鏡センター

畑田康政（内視鏡センター長兼消化器内科部長）

内視鏡センターが現在の4階に開設されたのは、1997（平成9年）8月でちょうど病院の開院50周年の記念の年でした。当時から各科の垣根をこえたいろいろな科の医師が関わっていましたが、現在、消化器内科、大腸肛門科、一般外科、呼吸器内科、呼吸器外科など総勢30人以上の医師が協力して検査・治療にあたっています。センター内には、通常の検査を行う検査室が4部屋、早期がんの内視鏡治療や内視鏡的止血術などを行う内視鏡治療室、胆・膵内視鏡や結石治療、小腸内視鏡検査、気管支鏡検査などの透視を使った検査を行う透視室、検査や治療の後に状態を観察するための回復室などがあります。透視室は2010年12月に稼働開始し、それまで、地下1階のTV室に移動して行っていた、透視を必要とする検査・治療が、内視鏡センター内で行えるようになり、臨時、緊急の検査、処置も対応可能となっています。内視鏡センターで行われる検査や治療は多岐にわたり、主なものだけでも下記のごとくなります。

### 上部消化管内視鏡検査

主に午前中に行っています。検診の内視鏡も含めて、消化器内科・一般外科の医師などが行っています。通常の内視鏡観察に加えて、NBI(Narrow Band Imaging)、拡大内視鏡、EUS(超音波内視鏡検査)なども適宜行っています。内視鏡的胃瘻造設(PEG)・交換も行っています。



### 大腸内視鏡検査

主に午後に行っています。大腸肛門科・消化器内科医師が行っています。EMR(内視鏡的粘膜切除術)やポリペクトミーによる大腸早期がん・ポリープの治療も多数行っています。

### 消化器早期がんに対する治療

最先端の早期がん治療であるESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)のほかにEMR、ポリペクトミーによる胃ポリープ切除、APC(アルゴンプラズマガス凝固)による焼灼などを行っています。

### 胆・膵内視鏡検査・治療

胆膵疾患についても、ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やEST(内視鏡的十二指腸乳頭括約筋切開術)による総胆管結石の治療やステント留置などを行っています。

### 消化管出血に対する内視鏡的止血

エタノール局注、クリッピングなどの他に、APCによる血管の焼灼も行っています。食道静脈瘤に対する治療は、主に肝臓内科医師がEVL(内視鏡的静脈瘤結紮術)を行っています。

### 小腸内視鏡検査

小腸疾患に対するアプローチとして、当院は小腸造影検査の歴史がありますが、それに加えて、シングルバルーン内視鏡、カプセル内視鏡も常備しており、豊富な小腸疾患症例を経験しています。

### 気管支内視鏡

呼吸器内科・外科医師により行われる気管支内視鏡は、苦痛が少ないとの評価を受けています。

医学の進歩はめざましいものがありますが、幅広い分野に対応すべく、最新の設備を整えています。皆さんに安心して検査や治療を受けていただけるように、各分野の医師が協力し、安全で確実な医療を心がけております。